

協会けんぽだより



協会けんぽ2022(令和4)年度決算(見込み)のお知らせ

2022年度の決算(見込み)のポイント

2022年度の決算は収入が11兆3,093億円、支出が10兆8,774億円で、**収支差は4,319億円**となりました。

ポイントとして、収支差は前年度比で増加(+1,328億円)しましたが、この要因は、保険料収入の増加(+1,868億円)より保険給付費の増加(+2,502億円)が上回ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う2020年度の高齢者の医療費の一時的な減少により、後期高齢者支援金に多額の精算(戻り分1,901億円)が生じたこと等によって支出の伸びが抑えられたことによるもので、一時的な特殊事情によるものです。

※詳しくは、協会けんぽホームページをご覧ください。

2022年度決算(見込み) <医療分>

収入	11兆3,093億円	(+1,813億円)
支出	10兆8,774億円	(+486億円)
収支差	4,319億円	(+1,328億円)
準備金	4兆7,414億円	(+4,319億円)

※()内は、対前年度比。

保険給付費 63.9%

協会けんぽが医療機関に支払う費用や、傷病手当金等の支払いに要する費用

高齢者医療への拠出金等 33.0%

高齢者の皆さまの医療費の一部を現役世代が負担しています。その額は、支出の約1/3を占め、重い負担になっています。

今後、団塊の世代が75歳以上となることによって、高齢者医療への拠出金の増加が見込まれています。

健診・保健指導経費 1.2%
協会事務費 0.9%
その他の支出 1.0%

支出
約10.9兆円

保険料収入 88.8%

被保険者・事業主の皆さまに納めていただいている保険料

収入
約11.3兆円

国からの補助金 11.0%
その他の収入 0.2%



Q 2022年度の決算は黒字額が増加しましたが、協会けんぽの財政は今後どのような見通しなのでしょうか？

A. 協会けんぽの財政は、以下の理由から楽観を許さない状況です。

- 収入面では、賃上げによる賃金の上昇が当面は見込まれるものの、被保険者数の伸びが鈍化していることや、不安定な海外情勢や物価高の影響等で経済の先行きが不透明であること等によって、これまでのような保険料収入の増加が今後も続くとは期待し難いこと。
- 支出面では、医療給付費がコロナ禍前の水準を上回って推移した2021年度(対前年度比+8.6%)をさらに上回り、2022年度は対前年度比+4.4%と高い伸びで推移していることや、今後も、後期高齢者支援金の増加が見込まれること。

こうした状況を踏まえ、協会は、将来を見据えて、加入者の健康増進の取り組みを中心とした医療費の適正化をさらに推進するとともに、安定した財政運営に努めてまいります。

岐阜支部が2022(令和4)年度に取り組んだ事業と実施結果はこちらからご確認ください。



被扶養者(ご家族)様の資格の再確認を行います

協会けんぽでは保険給付の適正化を目的に、健康保険の被扶養者となっている方が現在もその状況にあるかを確認させていただくため、被扶養者の資格の確認用リストをお送りします。

対象になる方

令和5年4月1日時点で
18歳以上の被扶養者

※対象の方がいない事業所には送付いたしません

送付時期

令和5年10月下旬から11月上旬

提出書類

被扶養者状況リスト(すべての方が変更なしの場合でも提出が必要です)

- 被保険者と別居している方 ▶ 被扶養者現況申立書と仕送りの事実と仕送り額が確認できる書類
海外に在住している方 ▶ 被扶養者現況申立書と海外特例要件に該当していることが確認できる書類

扶養解除となる被扶養者がいる場合は以下の添付書類も必要です

被扶養者調書兼異動届(削除用)・扶養解除する方の保険証



提出期限 令和5年12月8日(金)



お問い合わせ

協会けんぽ岐阜支部 業務グループ ☎ 058-255-5155 (自動音声案内①)

知らなかった! 健康への第一歩

第5回

飲酒は栄養を考えたおつまみと一緒に!

お酒を飲んでいるときは、アルコールによってビタミンやミネラルが失われやすくなっています。おひたしや和え物などの野菜、ワカメなどの海草類、アルコールの分解を助けるたんぱく質を含む冷奴や枝豆などの豆類をおつまみに選ぶようにしましょう。

食べ合わせによって飲酒時のリスクが変わってくるんだね。知らなかった!

岐阜支部マスコット
キャラクター

鵜飼さん



健康クイズ

岐阜支部マスコット
キャラクター
ルージュ



Q.1 1日のお酒の適量は純アルコール量20g程度である。○か×か。

Q.2 お酒は適量であれば健康に良いので毎日飲んでも構わない。○か×か。

答え

Q.1... ○ 個人差はありますが、医学的には純アルコール量で1日20~25g程度(缶ビール500ml1本程度)とされています。頭痛や吐き気など不快な酔いの症状が出やすい人や女性、高齢者などは、この基準よりも少なめを適量と考えましょう。

Q.2... × アルコールを毎日飲むと、肝臓などに負担がかかってしまいます。週2日以上のお休肝日を設け、1週間のアルコール摂取量が150gを超えないようにしましょう。

